

2017年度通期決算 電話会議 資料

2018年5月18日（金）

立ちどまらない保険。

MS&AD

INSURANCE GROUP

MS&AD Insurance Group Holdings, Inc.

全体目次

2017年度決算の概要

グループ連結	P5-9
自然災害の状況	P10-11
国内損害保険会社	P12-14
国内生命保険会社	P15-16
海外保険子会社	P17
（参考）国内損保会社主要2社の業績概要	P18-20
（参考）MS Amlin 2017年度(2017年1-12月期)業績概要	P21

2018年度業績予想

グループ連結	P23-26
今回業績予想の主な前提	P27
国内損害保険会社	P28-31
国内生命保険会社	P32-33
海外保険子会社	P34-35
（参考）グループ修正利益・グループ修正ROEの組替え表	P36

MS&AD Insurance Group Holdings, Inc.

2017年度通期決算の概要

MS&AD Insurance Group Holdings, Inc.

本日のポイント

2017年度 業績

- ・連結当期純利益は、国内、海外の自然災害の影響などにより、前期比△563億円となるも、2017年11月発表の業績予想を90億円超過

2018年度 業績予想

- ・一過性の大口自然災害の抜けを含む海外事業の収益回復を主因に、前期比+30%の459億円増益

株主還元

- ・300億円を上限とする自社株取得を決議

グループ連結（2017年度）①業績の概要 1（トップライン）

- 正味収入保険料は、海外子会社が減収したものの、国内損保子会社で、火災保険や外国受再契約を中心に増収したことから、グループ全体では 399億円増収の 3兆 4,469億円。
- 国内生保子会社のグロス収入保険料は、MSP生命における一部変額商品の売り止めを主因に、△418億円の減収。

損保子会社

(億円)

	2016年度	2017年度	2017年度	
			前期比	増収率
元受正味保険料(除く収入積立保険料)※	35,168	35,687	518	1.5%
正味収入保険料※	34,069	34,469	399	1.2%
三井住友海上	14,696	15,003	306	2.1%
あいおいニッセイ同和損保	12,005	12,220	214	1.8%
三井ダイレクト損保	376	378	2	0.6%
海外保険子会社	6,931	6,823	△ 107	△ 1.6%

※ 自動車保険「もどリッチ」の払戻充当保険料を控除したベース

生保子会社

(億円)

	2016年度	2017年度	2017年度	
			前期比	増収率
保険料(グロス収入保険料)※	15,500	15,081	△ 418	△ 2.7%
三井住友海上あいおい生命	4,789	4,925	136	2.9%
三井住友海上プライマリー生命	10,711	10,156	△ 555	△ 5.2%
生命保険料	12,531	10,582	△ 1,948	△ 15.6%

※ 保険料(グロス収入保険料)は国内生保子会社のみ

MS&ADホールディングス広報・IR部長の塩野でございます。

本日は、お忙しい中、弊社の決算電話会議にご参加いただき、ありがとうございます。

17年度決算および18年度業績予想につきまして、ご説明させていただきます。

また、弊社ホームページにも、説明会資料およびエクセルファイルでデータ集を掲載しておりますので、ご確認頂ければと思います。

それでは、「2017年度通期決算 電話会議 資料」と題したスライドの少し飛びますが、5ページをご覧下さい。

まず、グループのトップラインの状況について説明いたします。

損保の正味収入保険料は、3兆4,469億円と、399億円、1.2%の増収となり、過去最高を更新しました。

内訳として、MSは、料率改定影響のあった自賠責保険を除くすべての保険種目で増収したことにより、306億円、2.1%の増収、ADは国内の火災保険や外国受再契約などで増収したことにより、214億円、1.8%の増収となりました。

一方、海外保険子会社は、MSアムリンの減収を主因に、107億円、1.6%の減収となりました。

グループ連結（2017年度）①業績の概要 2（ボトムライン）

- ・ 当期純利益は、国内・海外の自然災害ロスの増加に加え、MS Amlinの一般ロスの増加を受け、前期比△26.8%減益の1,540億円となるも、2017年11月発表の業績予想比+90億円

(億円)

	2016年度	2017年度	
		前期比	増減率
経常利益	3,526	2,115	△ 1,410 △ 40.0%
三井住友海上	2,155	2,625	470 21.8%
あいおいニッセイ同和損保	751	56	△ 695 △ 92.5%
三井ダイレクト損保	△ 9	4	14 -
三井住友海上あいおい生命	161	169	8 5.1%
三井住友海上プライマリー生命	576	289	△ 287 △ 49.8%
海外保険子会社	400	△ 1,043	△ 1,443 △ 360.8%
その他・連結調整等	△ 510	13	523 -
当期純利益 ※	2,104	1,540	△ 563 △ 26.8%
三井住友海上	1,645	1,982	336 20.5%
あいおいニッセイ同和損保	503	156	△ 347 △ 69.0%
三井ダイレクト損保	△ 9	2	12 -
三井住友海上あいおい生命	45	52	6 14.9%
三井住友海上プライマリー生命	207	292	85 41.1%
海外保険子会社	240	△ 1,046	△ 1,287 △ 534.7%
その他・連結調整等	△ 529	100	630 -

※ 連結の当期純利益は、親会社株主に帰属する当期純利益を記載。子会社の当期純利益は、出資持分ベース。以下同じ。

次に、6ページをご覧ください。

グループのボトムラインの状況について説明いたします。

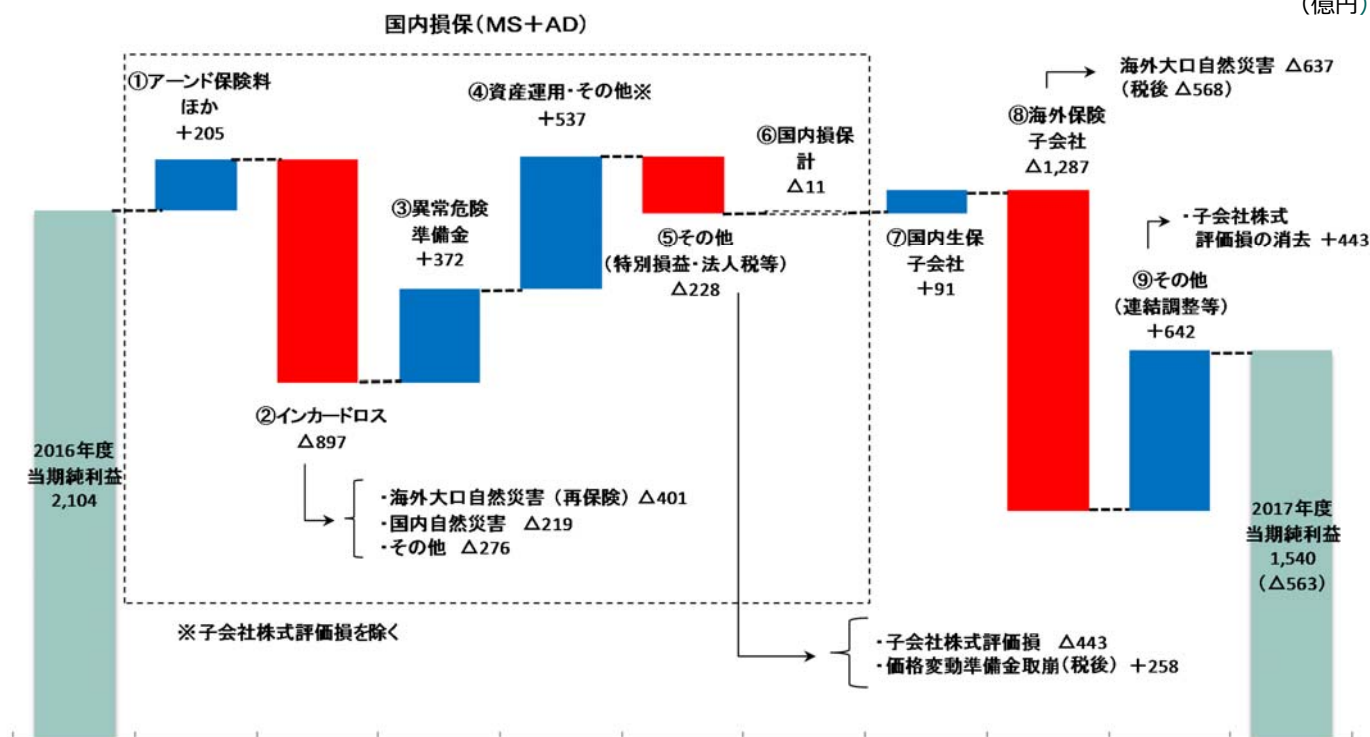
北米地域を中心に過去最高とも言われる被害をもたらしたハリケーンや山火事が発生したことに加え、大きな損害をもたらした台風21号を主因に国内自然災害が例年を上回ったことなどから、当期純利益は△26.8%減益の1,540億円となりましたが、2017年11月に発表した業績予想を90億円上回りました。詳細につきましては、後ほどご説明いたします。

グループ連結（2017年度）②前年同期との比較 1

- ・減益の主因は、②の国内損保子会社のインカードロスにおける国内外自然災害と⑧海外保険子会社の海外大口自然災害等の増加
- ・国内損保における①アード保険料の増加等、③異常危険準備金積増、④政策株式の削減進捗等による資産運用損益・その他の増加、⑦国内生保子会社の増益はプラスに寄与

連結純利益

(億円)



次に、7ページをご覧ください。

グラフを使って、2017年度当期純利益の対前年変動要因を説明します。

なお、8ページに内訳の数値を記載しておりますので、併せてご参照ください。

前期比 △563億円減益の主因は、②番の「国内損保子会社のインカードロス」に含まれる国内外の自然災害の増加と⑧番の「海外保険子会社」に含まれている、北米ハリケーン等の損害の影響、およびMSアムリンにおける一般種目におけるインカードロスの増加です。

一方、プラス要因としては、①番の国内損保のアード保険料の増加、③番の異常危険準備金損益のプラス、および④政策株式の削減進捗等による有価証券売却益の増加、⑦番の国内生保子会社の増益などがあります。また、⑤番の「その他」の項目には、AD欧州子会社の株式評価損および、この子会社株式評価損計上に伴うAD社の価格変動準備金取崩益が含まれています。なお、AD社で計上した子会社株式評価損は連結調整により消去されます。

⑨番の連結調整等は、先ほどのAD社における株式評価損の消去や、前期に計上した、第三分野保有契約移行に関わるシステム関連費用がなくなった影響などを主因として、642億円のプラス要因となっております。

次に1ページとばして、9ページをご覧ください。

当期純利益の内訳

(億円)

	2016年度	2017年度	差額
当期純利益	2,104	1,540	△ 563
国内損保 ^{※1} 保険引受利益(除く家計地震・自賠責)	1,213	893	△ 319
アード保険料ほか ^{※2} ①	15,326	15,532	205
インカードロス(含む損害調査費) ②	△ 13,295	△ 14,193	△ 897
異常危険準備金積増 ③	△ 818	△ 446	372
資産運用・その他 ^{※3} ④	1,737	2,274	537
その他(特別損益・法人税等) ⑤	△ 800	△ 1,029	△ 228
国内損保計 ⑥	2,149	2,138	△ 11
国内生保子会社 ⑦	252	344	91
海外保険子会社 ⑧	240	△ 1,046	△ 1,287
連結調整等 ⑨	△ 538	103	642

※1 国内損保は、三井住友海上とあいおいニッセイ同和損保の金額の合計

※2 「アード保険料ほか」には、事業費などが含まれる

※3 子会社株式評価損を除く

(空白)

グループ連結（2017年度）③グループコア利益

・グループコア利益は、海外自然災害で△1,597億円の減益となった海外事業を主因に△1,085億円減益の1,051億円

(億円)

	2016年度	2017年度	
			前期比
グループコア利益 ※1	2,137	1,051	△ 1,085
国内損保事業	1,533	1,901	367
国内生保事業	251	343	92
海外事業	346	△ 1,250	△ 1,597
金融サービス事業/リスク関連事業	5	56	51
その他経営数値目標			
コンバインド・レシオ(国内損保)※2	92.6%	92.8%	0.2pt
MSA生命EV増加額	1,984	413	△ 1,570
グループROE ※1	7.9%	3.7%	△ 4.2pt

※1 「グループコア利益」、「グループROE」の定義は最終ページご参照

※2 「コンバインド・レシオ(国内損保)」は、三井住友海上、あいおいニッセイ同和損保、三井ダイレクト損保の合計

(参考)

グループ コア利益 1,051	=	連結 当期 純利益 1,540	-	株式 キャピタル 損益 853	-	クレジット デリバティブ 評価損益 △1	-	その他 特殊 要因※3 △362	+	非連結 グループ会社 持分利益 0
-----------------------	---	--------------------------	---	--------------------------	---	-------------------------------	---	---------------------------	---	----------------------------

※3 のれん償却等△369、特別損益（除く価格変動準備金）+7

グループコア利益は、海外事業で大幅な減益となったことを主因に、
前期比 1,085億円減益の1,051億円となりました。
当期純利益からの主な調整は、参考欄に記載のとおりです。

自然災害の状況（2017年度）①

- ・国内自然災害と海外大口自然災害の合計は、前期比1,259億円増加の2,031億円
- ・国内自然災害に係るインカードロスは、台風21号（405億円）などの影響により、2社合計で前期比 219億円増加の730億円

当年度発生自然災害の影響

(億円)

	インカードロス	
		前期比
国内自然災害	730	219
海外大口自然災害	1,301	1,039
合計	2,031	1,259

国内自然災害の影響

(億円)

	インカードロス		支払保険金		支払備金繰入額	
		前期比		前期比		前期比
当年度発生国内自然災害						
三井住友海上	427	84	348	94	78	△ 10
あいおいニッセイ同和損保	303	135	235	93	67	42
合計	730	219	584	188	146	31

※ 台風21号によるインカードロスは 405億円 (MS 236億円、AD 169億円)

次に、当期の自然災害の影響を説明いたします。10ページをご覧ください。

国内自然災害および海外大口自然災害のインカードロスは、合計で、前期比1,259億円増加の2,031億円となりました。

また、国内自然災害のインカードロスは、台風21号(405億円)などの影響により、2社合計で前期比 219億円増加の730億円となりました。

・海外大口自然災害のインカードロスは、1,301億円

海外大口自然災害の影響

(億円)

	インカードロス				税後影響
	北米ハリケーン	カリフォルニア山火事	その他	合計	
	※1	※2			
三井住友海上	9	-	5	15	10
あいおいニッセイ同和損保	300	80	17	398	286
海外子会社	512	253	120	887	787
（うちMS Amlin）	511	253	120	885	785
合 計	822	334	144	1,301	1,085
前期比				1,039	856

※1 ハービー、イルマ、マリアの合計

※2 10月、12月発生の合計

次に、11ページをご覧ください。

世界の再保険市場でトップ10に入るメジャープレイヤーである当社の、海外大口自然災害のインカードロスは、過去最大級の自然災害が発生した年であったことから、1,301億円となりました。

国内損害保険会社（2017年度）①主要2社の業績概要 1

- ・アード保険料は、火災保険を中心に365億円の増収となった。一方、インカードロスは自然災害の増加などにより897億円の増加、増収に伴う手数料の増加により事業費は158億円の増加。保険引受利益（異常危険準備金反映前）は2社合計で△692億円減益の1,339億円。

	2社合計(単純合計)		三井住友海上(単体)		あいおいニッセイ同和損保	
		前期比		前期比	(単体)	前期比
正味収入保険料 ^{※1}	27,223	521	15,003	306	12,220	214
アード保険料 ^{※2}	23,615	365	13,128	199	10,487	166
インカードロス(含む損害調査費) ^{※2}	(-) 14,193	897	7,752	367	6,440	529
保険引受に係る事業費 ^{※2}	(-) 8,048	158	4,368	105	3,680	52
諸手数料及び集金費 ^{※2}	4,777	182	2,514	72	2,263	109
営業費及び一般管理費 ^{※2}	3,271	△23	1,853	33	1,417	△57
保険引受利益(異常危険準備金反映前)	1,339	△692	1,003	△278	336	△413
異常危険準備金損益	△446	372	△158	305	△287	66
保険引受利益	893	△319	844	26	48	△346
EI損害率 ^{※2}	60.1%	2.9pt	59.1%	2.0pt	61.4%	4.1pt
正味損害率 ^{※1}	60.5%	0.3pt	61.6%	0.4pt	59.2%	0.1pt
正味事業費率 ^{※1}	32.2%	0.0pt	31.3%	0.1pt	33.4%	△0.1pt
コンバインド・レシオ ^{※1}	92.7%	0.3pt	92.9%	0.5pt	92.6%	0.0pt

※1 全種目ベース、※2 除く家計地震・自賠責ベース

※自動車保険「もどりッチ」の払戻充当保険料を控除したベース

※アード(既経過)保険料は、未経過保険料(除く自然災害責任準備金)・保険料積立金等を調整して算出

次に、12ページをご覧ください。国内損保主要2社に関し、12ページで保険引受利益について、13ページで資産運用等について、まとめておりますので、後ほどご覧ください。

なお、MS単体の当期純利益は、1,982億円となり、単体としては過去最高益となりました。

国内損害保険会社（2017年度）①主要2社の業績概要 2

- ・資産運用・その他収支は、政策株式売却が進捗したことから有価証券売却損益が1,343億円となり、AD社で欧州子会社株式の評価損を467億円計上した（連結決算では消去）ものの、前期比 94億円増益の 1,788億円
- ・AD社の特別損益は、価格変動準備金取崩等により、前期比395億円増益の311億円

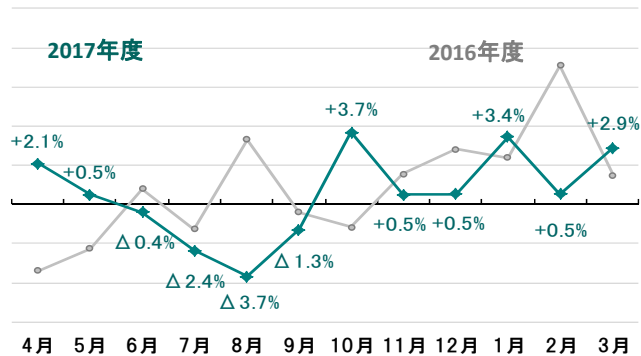
	2社合計(単純合計)		三井住友海上(単体)		あいおいニッセイ同和損保	
		前期比		前期比	(単体)	前期比
保険引受利益	893	△ 319	844	26	48	△ 346
ネット利息及び配当金収入	1,134	△ 58	716	△ 96	417	37
有価証券売却損益	1,343	580	1,188	515	155	64
有価証券評価損 (－)	500	446	10	5	490	441
資産運用・その他収支	1,788	94	1,780	443	7	△ 348
経常利益	2,681	△ 225	2,625	470	56	△ 695
特別損益	327	482	15	86	311	395
税引前当期純利益	3,009	256	2,641	556	367	△ 300
法人税等	870	267	658	220	211	47
当期純利益	2,138	△ 11	1,982	336	156	△ 347
	2社合計					
		前期比				
(参考)政策株式売却額	1,513	183				

(空白)

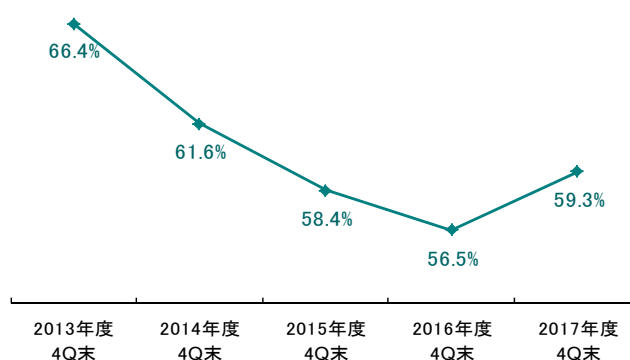
国内損害保険会社（2017年度）②自動車保険の状況

- ・ 事故件数は、3月末累計で前年比0.3%の微増。修理費の上昇等により、対物・車両の保険金単価は引き続き上昇
- ・ EI損害率は、自然災害が増加したこと等による保険金の増加、および過去の料率引き上げ効果が一巡し、料率低下局面となったこと等により、2.8pt上昇の59.3%となった。

事故件数の推移（国内、1日あたり、対前年同月。除く自然災害）
（MS・AD 2社単純合算ベース）



EI 損害率の推移（含む損害調査費）
（MS・AD 2社単純合算ベース）



保険料・保険金

三井住友海上

<国内・営業ベース>	契約台数	保険料単価	保険料
保険料増減要因	+1.2%	Δ 0.7%	+0.5%
<国内>	対物	車両（除く自然災害）	
保険金単価増減	+0.3%	+1.6%	

あいおいニッセイ同和損保

<国内・営業ベース>	契約台数	保険料単価	保険料
保険料増減要因	+1.0%	Δ 1.2%	Δ 0.2%
<国内>	対物	車両（除く自然災害）	
保険金単価増減	+1.2%	+0.1%	

※ 保険料増減要因の諸数値は営業成績ベース(4-3月)の対前年同期比

※ 保険金単価の増減は、2017年3月末過去1年間の保険金単価に対する、2018年3月末過去1年間の保険金単価の増減を表示

※ EI損害率算出対象期間は、各年度の4-3月

次に14ページをご覧ください。自動車保険の状況を説明いたします。

上段左の折れ線グラフは、2社合算の自動車保険の事故件数の、前年同月比増減を示しています。事故件数の前年同月比増減の推移は、年度累計では0.3%の緩やかな増加となりました。

一方、スライド下段の保険金単価ですが、修理費等の上昇により対物および車両の保険金単価が引き続き上昇しており、インカードロス増加の要因となっています。

2社合算のEI損害率は、上段右のグラフの通り 2.8ポイント上昇し、59.3%となりました。

- ・新契約高は、新商品を発売した収入保障保険の大幅な増加を主因に、前期比 11.0%増加の 2兆6,395億円
- ・当期純利益は、6億円増益の 52億円

三井住友海上あいおい生命

(億円)

	2016年度	2017年度		
			前期比	増減率
新契約高 (個人合計)	23,771	26,395	2,624	11.0%
新契約年換算保険料	517	388	△ 129	△ 25.0%
うち 第三分野	152	139	△ 12	△ 8.4%
保有契約高 (個人合計)	232,142	238,068	5,925	2.6%
保有契約年換算保険料	4,010	4,123	113	2.8%
うち 第三分野	884	967	82	9.3%
保険料(グロス収入保険料)	4,789	4,925	136	2.9%
経常利益	161	169	8	5.1%
特別損益	△ 7	△ 8	△ 1	—
当期純利益	45	52	6	14.9%
基礎利益	186	128	△ 58	△ 31.2%
EEV	7,942	8,355	413	
純資産価値	4,404	4,463	58	
保有契約価値	3,537	3,892	354	
うち新契約価値	473	474	0	

次にMSA生命の状況について説明します。15ページをご覧ください。

新商品効果もあり、新契約高は 11.0%の増加、また保有契約高および保有契約年換算保険料もそれぞれ 2.6%、2.8%増加しており、着実に契約を積み上げております。

当期純利益は、4月1日の標準利率の改定により責任準備金負担が増加したものの有価証券売却益などのキャピタル損益の増加などにより、6億円増益の 52億円となりました。

- ・ グロス収入保険料は、1兆156億円と4年連続で1兆円を突破（変額保険の販売減少を主因に前期比 555億円減少）
- ・ 当期純利益は、前期比 85億円増益となる 292億円
- ・ 市況環境の変動に伴う評価損の発生などを主因に、価格変動準備金は115億円の取崩（前期は289億円の繰入）

三井住友海上プライマリー生命

(億円)

	2016年度	2017年度		
			前期比	増減率
新契約高（個人合計）	10,322	10,156	△ 165	△ 1.6%
保有契約高（個人合計）	56,807	60,618	3,811	6.7%
保険料（グロス収入保険料）	10,711	10,156	△ 555	△ 5.2%
経常利益	576	289	△ 287	△ 49.8%
特別損益	△ 289	115	404	—
当期純利益	207	292	85	41.1%

金利・為替影響と価格変動準備金

(億円)

金利影響	5	41
為替影響	68	△236
小計	73	△195
売却益	85	9
合計	159	△186

続いてMSP生命の業績を説明いたします。16ページをご覧ください。

商品ラインの入替を主因に、グロス収入保険料は、555億円減収の1兆156億円となりましたが、4年連続で1兆円を突破するなど、販売面は依然好調です。

当期純利益は、保有契約の増加に伴う利ざやの増加などが寄与し、85億円増益の 292億円と過去最高益を更新しました。

海外保険子会社（2017年度）業績概要

- ・アジアおよび米州は、トップライン・ボトムラインともに前期比で順調に増収・増益
- ・欧州はMS Amlinの自然災害ロスおよび一般ロスの増加などにより、△1,324億円減益の△1,247億円

海外保険子会社

(億円)

	2016年度	2017年度		
			前期比	増減率
正味収入保険料	6,931	6,823	△ 107	△ 1.6%
アジア	1,545	1,625	79	5.2%
欧州	4,931	4,704	△ 226	△ 4.6%
(うちMS Amlin [※])	4,558	4,296	△ 261	△ 5.7%
米州	454	493	38	8.5%
当期純利益	240	△ 1,046	△ 1,287	△ 534.7%
アジア	132	165	32	24.8%
欧州	77	△ 1,247	△ 1,324	△ 1,715.9%
(うちMS Amlin [※])	123	△ 1,104	△ 1,228	△ 992.6%
米州	30	35	4	14.5%

※ 2016年度末にMS Amlinにロイズ・再保険事業を統合しているため、前期業績にはMS Amlinに統合された子会社の業績を含めて表示

次に海外保険子会社の状況について説明いたします。17ページをご覧ください。

当期純利益は、アジアや米州は為替影響を除いても堅調な増益となったものの、MS アムリンが1,104億円の損失となったことから、海外保険会社全体では、1,287億円減益の、マイナス1,046億円となりました。

MS アムリンについては、第3四半期までで説明しました一連の北米大口自然災害見込み損害額を41億円積み増し、合計885億円となった事に加え、一般種目に関して過年度契約分を中心にIBNR備金の見直しを徹底した結果、約200億円のインカードロス増加となったことが、主因です。

同社の2年間の収益回復プランについては、のちほど業績予想のところでお話しします。

18ページから20ページまでは、MSとADそれぞれの単体、および2社単体の単純合算の業績を付けております。

また、参考資料として、21ページにMSアムリンの通期末の業績を、付けておりますので、後ほどご覧ください。

(ご参考) 国内損害保険会社 (2017年度) 主要2社の業績概要 1

正味収入保険料

(億円)

	2社合計(単純合計)		三井住友海上(単体)		あいおいニッセイ同和損保(単体)	
		増収率		増収率		増収率
火災	3,711	10.2%	1,967	7.0%	1,744	14.0%
海上	679	6.0%	604	3.1%	74	37.0%
傷害	2,089	2.0%	1,476	2.9%	613	△0.1%
自動車	13,432	0.6%	6,592	0.8%	6,840	0.5%
自賠責	3,515	△1.1%	1,845	△1.3%	1,670	△1.0%
その他	3,794	1.5%	2,518	3.8%	1,276	△2.9%
合計	27,223	2.0%	15,003	2.1%	12,220	1.8%
除く家計地震・自賠責	23,698	2.4%	13,153	2.6%	10,545	2.3%

※自動車保険「もどりッチ」の払戻充当保険料を控除したベース

(ご参考) 国内損害保険会社 (2017年度) 主要2社の業績概要 2

EI損害率 (2社単純合算)

	EI損害率			EI損害率(除く自然災害影響)		
	2016年度	2017年度	前期比	2016年度	2017年度	前期比
火災	61.3%	76.7%	15.4pt	48.3%	50.0%	1.7pt
海上	51.7%	60.1%	8.4pt	51.3%	57.9%	6.6pt
傷害	52.2%	52.6%	0.4pt	52.2%	52.6%	0.4pt
自動車	56.5%	59.3%	2.8pt	56.3%	58.9%	2.6pt
その他	59.2%	50.1%	△9.1pt	58.4%	48.6%	△9.8pt
合計 (除く家計地震・自賠責)	57.2%	60.1%	2.9pt	54.9%	55.3%	0.4pt

※自動車保険「もどりッチ」の払戻充当保険料を控除したベース

※インカードロス=正味支払保険金+損害調査費+支払備金積増額

※EI損害率の分母となるアード(既経過)保険料は、未経過保険料(除く自然災害責任準備金)・保険料積立金等を調整して算出

※「自然災害影響」は、当年度発生国内自然災害および海外大口自然災害のインカードロスの金額。ただし、ADの2016年度は、国内自然災害に係るインカードロスの金額のみ

(ご参考) 国内損害保険会社 (2017年度) 主要2社の業績概要 3

EI損害率 (三井住友海上 (単体)、あいおいニッセイ同和損保 (単体))

	EI損害率				EI損害率(除く自然災害影響)			
	三井住友海上 (単体)		あいおいニッセイ 同和損保(単体)		三井住友海上 (単体)		あいおいニッセイ 同和損保(単体)	
		前期比		前期比		前期比		前期比
火災	71.8%	7.9pt	82.3%	24.2pt	53.6%	5.7pt	45.7%	Δ3.1pt
海上	59.1%	7.3pt	68.9%	19.3pt	57.6%	6.1pt	60.0%	10.4pt
傷害	52.9%	0.1pt	52.0%	1.1pt	52.9%	0.1pt	51.9%	1.0pt
自動車	59.3%	3.4pt	59.3%	2.2pt	58.9%	3.2pt	58.8%	1.9pt
その他	51.3%	Δ7.4pt	47.8%	Δ12.5pt	50.0%	Δ7.7pt	45.9%	Δ13.8pt
合計 (除く家計地震・自賠責)	59.1%	2.0pt	61.4%	4.1pt	55.7%	1.3pt	54.7%	Δ0.9pt

※ 自動車保険「もどリッチ」の払戻充当保険料を控除したベース

※ インカードロス=正味支払保険金+損害調査費+支払備金増額

※ EI損害率の分母となるアード(既経過)保険料は、未経過保険料(除く自然災害責任準備金)・保険料積立金等を調整して算出

※ 「自然災害影響」は、当年度発生国内自然災害および海外大口自然災害のインカードロスの金額。ただし、ADの2016年度は、国内自然災害に係るインカードロスの金額のみ

(ご参考) MS Amlin 2017年度(2017年1-12月期)業績概要

	2016年度 ^{※1}	2017年度	
			前期比
正味収入保険料	3,093	2,955	Δ138
アード保険料	2,921	2,918	Δ3
インカードロス(含む損害調査費)	1,863	2,827	963
手数料・社費	1,058	1,089	30
保険引受利益	107	Δ965	Δ1,072
資産運用損益 ^{※2}	117	195	77
その他損益 ^{※3}	Δ96	Δ102	Δ6
当期純利益	83	Δ759	Δ843
EI 損害率	64%	97%	33pt
EI 事業費率 ^{※4}	32%	36%	4pt
EI コンバインド・レシオ ^{※4}	96%	133%	37pt

※1 2016年度末にMS Amlinにロイズ・再保険事業を統合しているため、前期業績にはMS Amlinに統合された子会社の業績を含めて表示

※2 MS Amlinは有価証券の時価変動を損益に反映させる会計処理方法を採用

※3 その他損益の主な項目は保険事業会社以外で生じる経費等

※4 EI 事業費率およびE/I コンバインド・レシオは、現地管理に合わせて保険引受利益に含まれる為替差損益を入れて算出

2018年度業績予想

MS&AD Insurance Group Holdings, Inc.

(空白)

損保子会社

(億円)

	2017年度	2018年度(予想)		
		前期比	増収率	
正味収入保険料※	34,469	34,800	330	1.0%
三井住友海上	15,003	15,010	6	0.0%
あいおいニッセイ同和損保	12,220	12,250	29	0.2%
三井ダイレクト損保	378	380	1	0.4%
海外保険子会社	6,823	7,160	336	4.9%

※ 自動車保険「もどりッチ」の払戻充当保険料を控除したベース

生保子会社

(億円)

	2017年度	2018年度(予想)		
		前期比	増収率	
保険料(グロス収入保険料)※	15,081	14,968	△ 114	△ 0.8%
三井住友海上あいおい生命	4,925	4,968	41	0.9%
三井住友海上プライマリー生命	10,156	10,000	△ 156	△ 1.5%
生命保険料	10,582	11,700	1,117	10.6%

※ 保険料(グロス収入保険料)は国内生保子会社のみ

次に、2018年度の連結業績予想について説明いたします。
23ページをご覧ください。

グループ連結の正味収入保険料は3兆4,800億円、増収率は1.0%を見込んでおります。
前年度の自賠責保険と自動車保険の料率引下げの影響があるため、MSは前年度と同水準、
ADの増収率は0.2%を見込んでおります。

海外保険子会社は、4.9%増収の7,160億円を見込んでおります。

国内生保子会社のグロス収入保険料は、
前年度とほぼ同水準の1兆4,968億円を見込んでおります。

(億円)

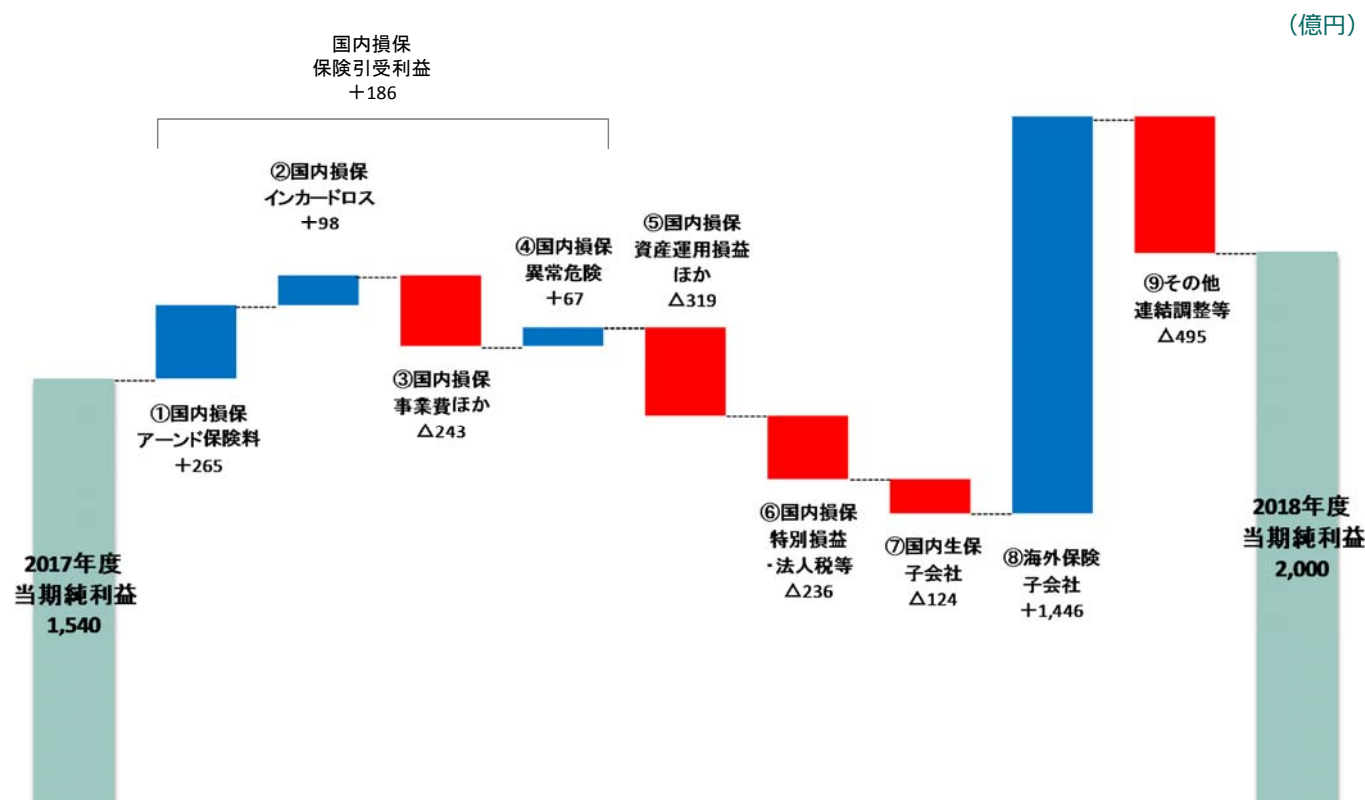
	2017年度	2018年度(予想)	
			前期比
経常利益	2,115	2,950	834
三井住友海上	2,625	1,880	△ 745
あいおいニッセイ同和損保	56	670	613
当期純利益 [※]	1,540	2,000	459
三井住友海上	1,982	1,410	△ 572
あいおいニッセイ同和損保	156	360	203
三井ダイレクト損保	2	2	△ 1
三井住友海上あいおい生命	52	50	△ 2
三井住友海上プライマリー生命	292	170	△ 122
海外保険子会社	△ 1,046	400	1,446
その他・連結調整等	100	△ 392	△ 492
ROE(財務会計ベース)	5.5%	6.8%	1.3pt

※ 連結の当期純利益は、親会社株主に帰属する当期純利益を記載。子会社の当期純利益は、出資持分ベース。以下同じ。

次に、経常利益と当期純利益について説明いたします。
24ページをご覧ください。

グループ連結の経常利益は2,950億円、
当期純利益は、前期比459億円増益の2,000億円を予想しております。

連結純利益の前期比増減要因



※ 国内損保は、三井住友海上とあいおいニッセイ同和損保の金額の単純合計

次に、当期純利益の増減要因について、次のスライドで説明いたします。25ページをご覧ください。

①番の「アードプレミアム」は、自賠責保険以外の種目で増収となることから、265億円の増収、②番の「インカードロス」は、自然災害のインカードロスが減少することを主因に98億円の減少を見込んでおります。

③番の「事業費ほか」は、将来的な成長に向けたR&D関連費用などの新規投資を織り込んだことによるものです。

次に⑤番の「資産運用損益ほか」は、有価証券売却損益が減少することを主因に319億円の減少となっております。

なお、政策株式の売却は、2社合計で930億円の売却を織り込んでおります。

⑥番の「特別損益・法人税等」には、ADでの価格変動準備金の追加積立150億円が含まれております。これは、2017年度に前期末残高の全額を取崩しているため、将来の運用環境悪化に備えるためのものです。

以上、①番から⑥番を合計しました国内損保は、前期比368億円の減少となります。

⑦番の「国内生保子会社」は、MSP生命で、変額商品にかかる保有契約高の減少に伴う保険関係費収入の減少や、経費負担の増加を主因とした利益の減少を見込んでおります。

⑧番の「海外保険子会社」は、MSアムリン社での利益回復を主因に、1,446億円の増加を見込んでおります。

⑨番の「その他連結調整等」の減少は、前年度にあった「子会社株式評価損の取消」がなくなることが主な要因となっております。

これらの結果、2018年度の当期純利益は2,000億円を予想しております。

(億円)

	2017年度	2018年度(予想)	
			前期比
グループ修正利益	2,010	2,700	689
国内損保事業	2,878	2,070	△ 808
国内生保事業	326	220	△ 106
海外事業	△ 1,250	370	1,620
金融サービス事業/リスク関連サービス事業	56	40	△ 16
その他経営数値目標			
MSA生命 EEV	8,355	8,650	294
グループ修正ROE	6.4%	8.5%	2.1pt

※「グループ修正利益」、「グループ修正ROE」の定義は38ページをご参照ください。

次に、グループ修正利益の状況について説明します。

26ページをご覧ください。

2018年度のグループ修正利益は、前期比 689億円増益の 2,700億円、
グループ修正ROEは 8.5%を予想しております。

なお、中期経営計画「Vision 2021」におけるグループ修正利益・グループ修正ROEの
定義については、38ページに掲載しておりますので、後ほどご覧ください。

		三井住友海上		あいおいニッセイ同和損保	
市場環境の前提		2018年3月末の水準を想定			
		(参考(2018年3月末) 日経平均 21,454円、米ドル 106円、ユーロ 131円、英ポンド 149円)			
国内自然災害		310億円	(△ 117億円)	200億円	(△ 103億円)
異常危険準備金 (火災保険)	繰入	99億円	(+ 0億円)	144億円	(+ 1億円)
	取崩	75億円	(△ 190億円)	97億円	(+ 63億円)
	積増	25億円	(+ 190億円)	47億円	(△ 61億円)
異常危険準備金 (自動車保険)	繰入	210億円	(△ 1億円)	221億円	(+ 1億円)
	取崩	123億円	(+ 86億円)	269億円	(+ 153億円)
	積増	87億円	(△ 88億円)	△ 48億円	(△ 151億円)
法定実効税率		27.9%			

※ 海外自然災害について、MS Amlinは248億円(自然災害を含む大口ロスファンド)。あいおいニッセイ同和損保は160億円。

※あいおいニッセイ同和損保で、価格変動準備金の追加積立150億円を予定。

※ ()内は前期比

次に、業績予想数値の主な前提について、次のスライドで説明いたします。
27ページをご覧ください。

日経平均株価、為替などの市場環境の前提は2018年3月末の水準としております。
当年度発生国内自然災害については、MSとADの2社合計で510億円、
また、欄外に記載しました海外自然災害については、MSアムリンで248億円、
ADで160億円の前提としております。

28ページ以降に、各社の資料を掲載しておりますので、後ほどご覧ください。

国内損害保険会社（2018年度）①主要2社の業績予想 1

(億円)

	2社合計(単純合計)		三井住友海上(単体)		あいおいニッセイ同和損保	
		前期比		前期比	(単体)	前期比
正味収入保険料 ^{※1}	27,260	36	15,010	6	12,250	29
アード保険料 ^{※2}	23,881	265	13,243	114	10,638	150
インカードロス(含む損害調査費) ^{※2} (－)	14,094	△ 98	7,733	△ 19	6,361	△ 79
保険引受に係る事業費 ^{※2} (－)	8,346	297	4,459	90	3,887	206
諸手数料及び集金費 ^{※2}	4,833	55	2,541	26	2,292	28
営業費及び一般管理費 ^{※2}	3,513	241	1,918	63	1,595	177
保険引受利益(異常危険準備金反映前)	1,458	118	1,068	65	390	53
異常危険準備金損益	△ 378	67	△ 298	△ 140	△ 80	207
保険引受利益	1,080	186	770	△ 74	310	261
EI損害率 ^{※2}	59.0%	△ 1.1pt	58.4%	△ 0.7pt	59.8%	△ 1.6pt
正味損害率 ^{※1}	61.7%	1.2pt	61.2%	△ 0.4pt	62.4%	3.2pt
正味事業费率 ^{※1}	33.3%	1.1pt	32.0%	0.7pt	34.9%	1.5pt
コンバインド・レシオ ^{※1}	95.0%	2.3pt	93.2%	0.3pt	97.3%	4.7pt

※1 全種目ベース、※2 除く家計地震・自賠責ベース

※ 自動車保険「もどリッチ」の払戻充当保険料を控除したベース

※ EI損害率の分母となるアード(既経過)保険料は、未経過保険料(除く自然災害責任準備金)・保険料積立金等を調整して算出

国内損害保険会社（2018年度）①主要2社の業績予想 2

(億円)

	2社合計(単純合計)		三井住友海上(単体)		あいおいニッセイ同和損保	
		前期比		前期比	(単体)	前期比
保険引受利益	1,080	186	770	△ 74	310	261
ネット利息及び配当金収入	1,080	△ 54	720	3	360	△ 57
有価証券売却損益	663	△ 680	559	△ 629	104	△ 51
有価証券評価損 (－)	65	△ 436	35	24	30	△ 460
資産運用・その他収支	1,470	△ 318	1,110	△ 670	360	352
経常利益	2,550	△ 131	1,880	△ 745	670	613
特別損益	△ 229	△ 556	△ 31	△ 46	△ 198	△ 509
税引前当期純利益	2,321	△ 688	1,849	△ 792	472	104
法人税等	551	△ 319	439	△ 220	112	△ 99
当期純利益	1,770	△ 368	1,410	△ 572	360	203

国内損害保険会社（2018年度）①主要2社の業績予想 3

正味収入保険料

(億円)

	2社合計(単純合計)		三井住友海上(単体)		あいおいニッセイ同和損保(単体)	
		増収率		増収率		増収率
火災	3,733	0.6%	1,981	0.7%	1,752	0.4%
海上	680	0.0%	601	△0.7%	79	5.5%
傷害	2,121	1.5%	1,500	1.6%	621	1.3%
自動車	13,448	0.1%	6,552	△0.6%	6,896	0.8%
自賠責	3,320	△5.6%	1,742	△5.6%	1,578	△5.5%
その他	3,958	4.3%	2,634	4.6%	1,324	3.8%
合計	27,260	0.1%	15,010	0.0%	12,250	0.2%
除く家計地震・自賠責	23,930	1.0%	13,262	0.8%	10,668	1.2%

※自動車保険「もどりッチ」の払戻充当保険料を控除したベース

(ご参考) 国内損害保険会社（2018年度）主要2社の業績予想 4

EI損害率

	EI損害率			EI損害率			
	2017年度	2018年度	前期比	三井住友海上(単体)		あいおいニッセイ同和損保(単体)	
				前期比	前期比	前期比	前期比
火災	76.7%	57.9%	△18.8pt	58.3%	△13.5pt	57.4%	△24.9pt
海上	60.1%	53.4%	△6.7pt	52.9%	△6.2pt	57.1%	△11.8pt
傷害	52.6%	52.9%	0.3pt	53.7%	0.8pt	51.1%	△0.9pt
自動車	59.3%	61.3%	2.0pt	61.1%	1.8pt	61.5%	2.2pt
その他	50.1%	56.6%	6.5pt	55.6%	4.3pt	58.6%	10.8pt
合計(除く家計地震・自賠責)	60.1%	59.0%	△1.1pt	58.4%	△0.7pt	59.8%	△1.6pt
(除く自然災害の影響)	55.3%	56.2%	0.9pt	56.1%	0.4pt	56.4%	1.7pt

※自動車保険「もどりッチ」の払戻充当保険料を控除したベース

※インカードロス=正味支払保険金+損害調査費+支払備金積増額

※EI損害率の分母となるアード(既経過)保険料は、未経過保険料(除く自然災害責任準備金)・保険料積立金等を調整して算出

※「自然災害影響」は、当年度発生国内自然災害および海外大口自然災害のインカードロスの金額。

主要項目

(億円)

	2017年度	2018年度 (予想)	
			増減率/前期比
新契約高 [※]	26,395	22,500	△14.7%
新契約年換算保険料 [※]	388	459	18.2%
保有契約高 [※]	238,068	238,800	0.3%
保有契約年換算保険料 [※]	4,123	4,287	4.0%
保険料(グロス収入保険料)	4,925	4,968	42
経常利益	169	160	△9
当期純利益	52	50	△3

※新契約高、新契約年換算保険料、保有契約高、保有契約年換算保険料は、個人保険・個人年金保険の合計

主要項目

(億円)

	2017年度	2018年度 (予想)	
			増減率/前期比
新契約高	10,156	10,136	△ 0.2%
保有契約高	60,618	65,700	8.4%
保険料(グロス収入保険料)	10,156	10,000	△ 156
経常利益	289	274	△ 15
当期純利益	292	170	△ 122

海外保険子会社

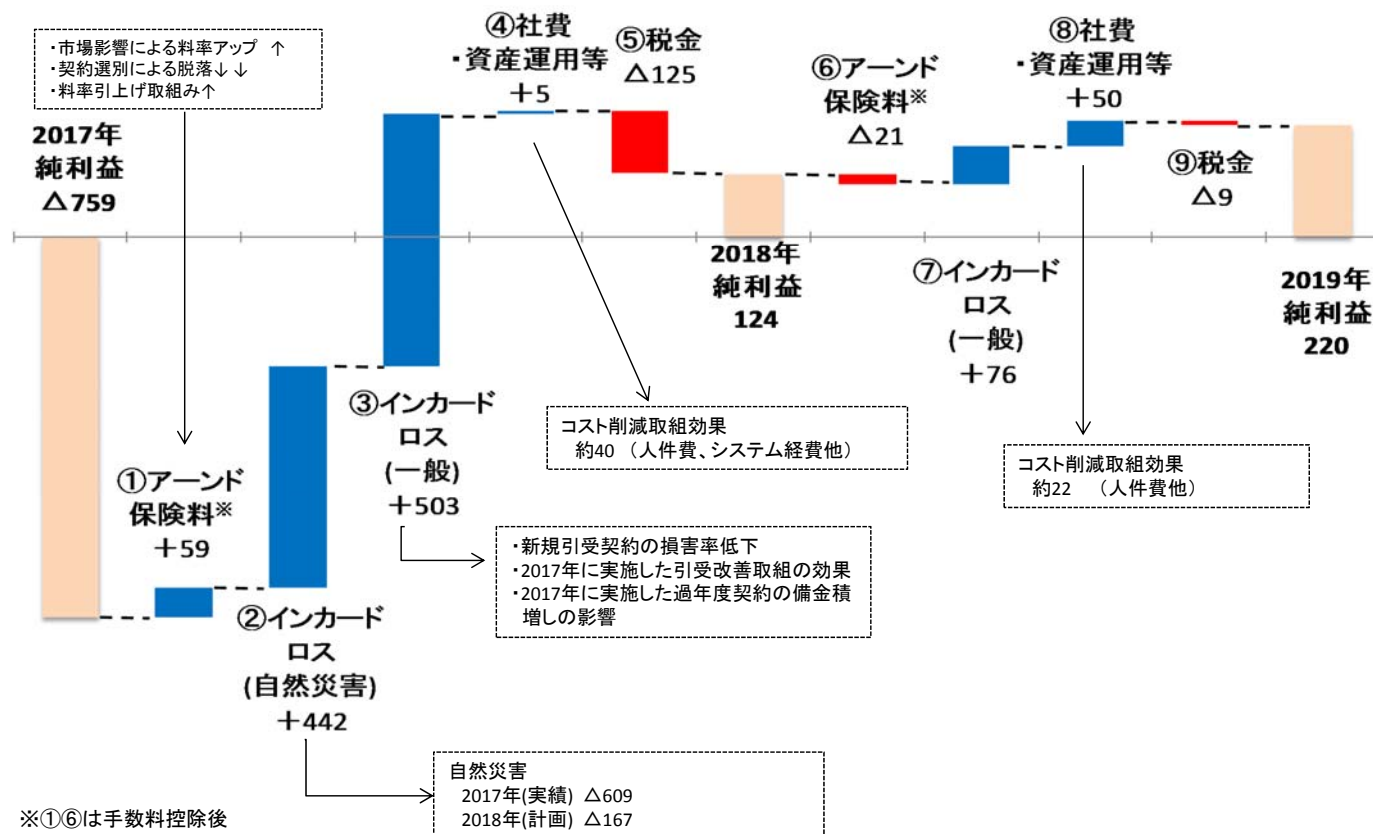
(億円)

	2017年度	2018年度(予想)	2018年度(予想)	
			前期比	増減率
正味収入保険料	6,823	7,160	336	4.9%
アジア	1,625	1,757	131	8.1%
欧州	4,704	4,919	214	4.6%
(うちMS Amlin)	4,296	4,498	201	4.7%
米州	493	484	△ 9	△ 1.9%
当期純利益	△ 1,046	400	1,446	-
アジア	107	173	66	61.5%
欧州	△ 1,247	119	1,366	-
(うちMS Amlin)	△ 1,104	185	1,289	-
米州	35	30	△ 5	△ 14.7%
海外生保	58	78	19	33.5%

(空白)

純利益の前期比増減要因

(単位:百万ポンド)



次に、MS アムリンの収益回復取組みについて、説明いたします。35ページをご覧ください。

円・ポンドの為替影響ノイズを取り除くために説明はポンド建てとする点、ご了承下さい。

まず、②番の自然災害のインカードロスは、昨年度実績を2018年度の大口径自然災害予算ベースへ引き直した効果であり、+442百万ポンドの増益を見込みます。

次に、①・⑥のアード保険料、合わせまして+38百万ポンドと、③・⑦のインカードロス(一般種目)の合計の+580百万ポンドの増益効果を見込みます。これは特定した19の種目毎に設定した「改善取組み」を反映したものであり、

料率引上げや条件変更、引受見合せや引受代理店との取引停止など「収益性回復取組み」による効果や、2017年度末に実績や直近のロス動向をより重視する方法に変更してIBNRを積増したことにより、2018年度は備金の積増しを見込んでいないことによります。

なお、新規・更改契約における収益性回復取組の効果については、2018年度においてアードする部分が半分、2019年度にアードする部分が半分となり、ポートフォリオ全体が完全に改善するのは2019年度となります。

また、2017年度引受け分が2018年度にアードする分も約半分ございますが、その分のインカードロスは2018年度の計画に算入しています。

自然災害再保険の料率引上げなどがトップライン面にプラスに効く部分もありますが、改善取組み期間中は引受厳格化に注力し、契約ポートフォリオの良質化を進めてまいります。

一方、コスト削減取組みを進めており、④・⑧の社費等の部分のうち、2018年度に40百万ポンド、2019年度に22百万ポンドのコスト削減効果を見込みます。

これらの取組みを着実に進める結果、税後純利益は、2018年度124百万ポンド、2019年度220百万ポンドへ改善させ、まずは当面の目標であるMSアムリンの2017年度年初目標水準へ回帰させる計画です。

(参考) グループ修正利益・グループ修正ROEの組替え表

グループ修正利益・グループ修正ROEへの変更（網掛け部が変更点）

旧定義 グループ ROE		グループコア利益 連結純資産※1	= 連結当期利益	- 株式キャピタル損益 (売却損益等)	- クレジットデリバティブ評価損益	- その他特殊要因※4	+ 非連結グループ会社持分利益
新定義 グループ修正 ROE		グループ修正利益 修正純資産	= 連結当期利益	+ 異常危険準備金等※2 繰入・戻入※3 額	- のれん・その他無形固定資産償却額等	+ 非連結グループ会社持分利益	
			= 連結純資産※1	+ 異常危険準備金等※2	- のれん・その他無形固定資産		

※ 各調整額は税引き後、※1 除く非支配株主持分・新株予約権、※2 国内損害保険事業およびMSA生命の異常危険準備金・危険準備金・価格変動準備金、※3 戻入の場合は減算、※4 のれん・その他無形固定資産償却額を含む

2017年度の組替え表

	グループ修正利益	グループコア利益
連結当期利益	1,540億円	1,540億円
+異常危険準備金等繰入・戻入額	106億円	-
-株式キャピタル損益(売却損益等)	-	853億円
-クレジットデリバティブ評価損益	-	▲1億円
-その他特殊要因(のれん・その他無形固定資産償却額等)	▲362億円	▲362億円
計	2,010億円	1,051億円
	修正純資産	連結純資産
連結純資産(自己資本)	29,411億円	29,411億円
+異常危険準備金等(残高)	7,204億円	-
-のれん・その他無形固定資産(残高)	4,625億円	-
計	31,990億円	29,411億円

なお、経営数値目標の内訳や基本戦略・事業戦略を含めた「Vision 2021」の全容については、5月24日のインフォメーションミーティングで説明させていただきます。

最後に、

本日「自己株式取得に係る事項の決定に関するお知らせ」をリリースしております。

本日開催の取締役会で、株主還元および資本効率の向上を目的とした、

時価総額300億円を上限とする自己株式取得を決議いたしました。

取得期間は2018年5月21日より2018年9月14日まで、

株式総数の上限は1,000万株としております。

以上で、私からの説明を終わります。

この資料では、社名表示に次の略称を使用している箇所があります。

- ・ MS&ADホールディングス、持株会社 (＝MS&ADインシュアランス グループ ホールディングス(株))
- ・ MS&AD (＝MS&ADインシュアランス グループ)
- ・ 三井住友海上、MS (＝三井住友海上火災保険(株))
- ・ あいおいニッセイ同和損保、AD (＝あいおいニッセイ同和損害保険(株))
- ・ 三井ダイレクト損保、MD (＝三井ダイレクト損害保険(株))
- ・ 三井住友海上あいおい生命、MSA生命 (＝三井住友海上あいおい生命保険(株))
- ・ 三井住友海上プライマリー生命、MSP生命 (＝三井住友海上プライマリー生命保険(株))
- ・ MS Amlin (＝MS Amlin plc)
- ・ MS First Capital (＝MS First Capital Insurance Limited)
- ・ Challenger (＝Challenger Limited)
- ・ ReAssure (＝ReAssure Jersey One Limited)

「グループコア利益」の定義

グループコア利益 = 連結当期利益 - 株式キャピタル損益 (売却損益等) - クレジットデリバティブ評価損益 - その他特殊要因
+ 非連結グループ会社持分利益

グループROE = グループコア利益 ÷ 連結純資産 (期初・期末平均、除く新株予約権・非支配株主持分)

「グループ修正利益」の定義

グループ修正利益 = 連結当期利益 + 異常危険準備金等繰入額 - その他特殊要因 (のれん・その他無形固定資産償却額等)
+ 非連結グループ会社持分利益

修正純資産 = 連結純資産 + 異常危険準備金等 - のれん・その他無形固定資産

グループ修正ROE = グループ修正利益 ÷ 修正純資産 (期初・期末平均)

予想および見通しに関する注意事項

この資料に記載されている内容のうち、MS&ADホールディングスならびにグループ各社の将来に関する計画や戦略、業績に関する予想や見通しは、現時点で把握できる情報から得られた当社グループの判断に基づいています。実際の業績は、さまざまな要因によりこれらの業績見通しと異なる結果になり得ることをご承知おき下さいますようお願いいたします。実際の業績に影響を及ぼし得る要因としては、(1)事業を取り巻く経済動向、(2)保険業界における競争激化、(3)為替レートの変動、(4)税制など諸制度の変更、などがあります。

お問い合わせ先

MS&AD インシュアランス グループ ホールディングス株式会社
広報・IR部

TEL: 03-5117-0311

URL: <http://www.ms-ad-hd.com/contact/index.html>